

令和元年度 山手地域包括支援センター自己評価報告書

		包括情報	
自己評価実施日	令和元年12月18日	法人名	社会福祉法人 山手の里
行政評価実施日	令和2年1月15日	責任者	黒滝 敦子
運営協議会開催日	令和2年3月24日	所在地	苫小牧市山手町1丁目1番2号 ハリスAP-A102
		連絡先	0144-71-5565

地域情報	
担当地区	有珠の沢町・啓北町・桜木町・宇高丘(55・56・60)豊川町・花園町・北光町・松風町・山手町
高齢者人口	7,953 人(R1.10.1現在)
高齢化率	36.1 %(R1.10.1現在)
地域特性	市内でも1、2を争う高齢者人口の多い地域である。公営住宅の居住割合が市内で一番低く戸建ても多い。王子製紙退職者が多く、生活水準に大きく反映されている。また2025年に一部の公営住宅の取り壊しにむけた転出者もある。生活保護世帯や年金受給額の低い世帯が多い。入院設備のある大きな病院へのアクセスも良く、個人病院やクリニックの開業医も多く医療機関への受診しやすい環境にある。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 1 人	常勤職員 6 人
主任介護支援専門員 2 人	非常勤職員 0 人
社会福祉士 2 人	
その他 1 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 4.2年

総合評価	
自己評価	行政評価
圏域の町内会や民生委員など地域や医療機関からの相談などを関係機関と連携を図りながら業務を行うことができたが、計画的な地域への働きかけは思うようにできていなかった。今後も含め次年度は安定した職員体制で3職種の専門性や役割を生かしながら計画的にチームとして職員全体での地域づくりを進めていきたい。	普段の活動において医療機関や介護事業所など関係機関との連携に努めている。地域包括支援センターにおける3職種配置の意味、役割理解を深め、圏域住民が安心して暮らせるまちづくりを進めるため、職員間が同じ目的のもとに協働し活動することを期待する。

評価項目		
1 運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている		
(4)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている		
(7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(8)介護予防支援業務における利用サービス事業所に隔りがない(占有率50%)未満		
(9)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(10)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
	自己評価	行政評価
特記事項	計画的に業務を行うことは出来なかったが、毎朝のミーティングや研修への参加を行い職場内での情報共有を図っている。プランナーの補充を行い職員同志で話し合い、今後も業務を進めていきたい。面談室の改善は出来たと考える。	定期的なミーティングを利用した情報共有や、課題解決に取り組まれている。昨年課題だった面談室については仕切りを設置しできる限りの改善はされている。体制変更もあった中で、計画に沿った包括運営を行うため、各職員が協力し、更なる事業目的理解をすすめ、業務運営することを期待する。
2 共通的支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	ホームページの更新などが行われていないため、引き続き、広報に向けた改善が必要と思われる。社会資源などを盛り込んだマップの実施をしていきたい。	山手地域包括支援センター独自の広報については昨年同様の課題であり、改善を期待する。また、昨年立ち上げ支援を行った資源の活動評価を行いつつ、引き続き地域実態の把握を行いながら活動することを期待する。

評価項目		
3 総合相談支援・権利擁護		
(1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている		
(2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断し、緊急性が高い場合には迅速に対応している。		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
	自己評価	行政評価
特記事項	民生委員・町内会などの地域や医療機関からの相談などに速やかに対応し信頼を得られるよう心がけている。また、成年後見制度の利用、高齢者虐待対応、消費者センターへの情報提供など必要な支援へ結び付けている。困難ケースの共有を行っているが、支援経過などの入力に課題がある。	速やかな判断や対応を意識して取り組まれている。困難事例など3職種専門性を踏まえた協議が行えていない状況があるが、3職種でのアセスメント、総合判断できる機会の設定、地域課題の情報共有など組織力向上を意識し取り組むことを期待する。
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
	自己評価	行政評価
特記事項	ケアマネジャーからの相談などが増え要請に応じ、都度の同行訪問や相談支援にあたっている。圏域のケアマネ連絡会では、引き続き質の高い事例検討会、研修会を行っていききたい。定期的・効果的な地域ケア会議を開催していききたい。	関係機関との連携を意識し取り組んでいる。今年度地域ケア会議の開催が進んでおらず、進めることで地域課題を発掘し、地域づくりに発展させることを期待する。

評価項目		
5 介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	介護保険外のサービスの提供も心掛けている。資源マップの作製を検討中。	普段の活動から見聞きした情報を必要な方に伝えるなど、介護保険外のサービス提供も意識している。様々な支援に活用できるよう、圏域の資源マップを作製することを期待する。
6 認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)ネットワーク会議や地域ケア会議等を認知症の方を支える仕組みづくりに活用している		
(4)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	事業評価
	認知症初期集中支援チームの介入ケースが少なく感じている。フレンドリーカレッジに参加し地域住民の認知症への関心の深さや支援の仕方を学びたいという意欲に接することが出来た。今後圏域の認知症地域支援推進員と連携を図りながら、地域ケア圏域会議を開催し地域づくりを行っていききたい。	認知症初期集中支援チームへの繋ぎや、搜索模擬訓練などの住民への普及については来年度の活動を期待する。把握した地域住民の声を地域づくりに生かすことを期待する。
7 在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	医療機関へは問診票や電話などで利用者の生活状況の提供や、通院同行し医療情報の把握に努めている。また事業所とは報告書や電話での連絡で情報共有を行っている。	医療機関や介護関係機関などとの連携を意識して取り組んでいる。今後も各関係機関との連携を行い、より良い支援に繋げることを期待する。

評価項目		
8 生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている		
特記事項	自己評価	行政評価
	総合相談などを通じ地域課題や資源の開発に向けての視点を継続し、生活支援コーディネーターとの連携に努めていきたい。	生活支援コーディネーターとの積極的な連携を図ることにはならなかった様子であるが、情報共有を密にし、今後の連携を意識した地域づくりに期待する。
9 一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
特記事項	自己評価	行政評価
	介護予防教室のスタッフとの申し送りや定期的な振り返りの場を設けている。3回連続し欠席された方へ連絡をしフォローを行っている。年に1度の市民講演会でははつらつ体操の普及に取り組み地域の町内会などから好評を得ることが出来た。	介護予防教室スタッフとの情報共有や振り返りなどや欠席者フォローに取り組まれている。保健師看護師部会の活動としてはつらつ体操普及を実施したが、今後も市民への介護予防普及啓発への積極的な取組を期待する。

○評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

1 事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容
昨年度に引き続き、各事業所や医療機関と多職種連携を意識し、事業に取り組んだ。
2 今年度事業の達成状況及び成果
総合相談や権利擁護などは、関係機関へ情報の提供や連携を心掛け、個別ケースへの対応を行っている。圏域のケアマネージャー連絡会の質の向上に取り組み、より良いものが提供できるよう引き続き活動中。
3 達成できた又は達成できなかった原因
職員の異動に伴う、他の職員の業務過多、委託事業者の減少(居宅事業所の職員の退職による)、予防プラン件数の増加に時間がかかり委託業務の円滑な遂行が出来なかった。
4 課題及び今後の取組み
計画的に委託業務を進めていきたい。また、毎年のことだが職員の定着が課題。3職種に限らず新人のプランナーの育成など、長く勤務する職員が増えるように業務量のバランスを考えていきたい。